

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-500	17-323	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Impact of alcohol & smoking on the surgical management of gastrointestinal patients. 消化器病患者の外科的処置へのアルコールと喫煙の影響。		
<b>執筆者</b>		
Kennedy ND, Winter DC.		
<b>掲載誌</b>		
Best Pract Res Clin Gastroenterol. 2017 Oct;31(5):589-595. doi: 10.1016/j.bpg.2017.10.005.		
<b>キーワード</b>		PMID:
肝硬変、肝切除、 喫煙 飲酒		29195679
<b>要 旨</b>		
<p>アルコールと喫煙は、すべての外科領域の中の臨床研究において修正可能な危険因子であることが繰り返言われてきた。これらの生活様式選択は、複数のプロセスにより最適とはいえない生理的状态を与えて、消化管疾患患者の外科的処置において、重要な役割を果たす。</p> <p>飲酒や喫煙を停止することは、手術自体で手術のための患者の適応度を最適化するために避けることはできないし、また、それは飲酒や喫煙の持続性停止の主要な機会でもある。外科的、麻酔科的、内科的およびプライマリーケアを含む一貫した計画的、統合したマネジメントは、喫煙と飲酒の停止と周術期ケアの成功を手助けする。この総説では、周術期の合併症の一因となる病理学的プロセスに焦点をあて、喫煙と飲酒習慣を持つ消化器疾患患者を周術期に検出して、予測し、適切にマネジメントするために、現在の診療の実際を詳述する。</p>		